

人口減少問題に関する提言書報告会の開催結果概要について

令和8年6月26日

昨年度12月にとりまとめた人口減少対策への提言書に係る報告会を4月17日に開催しました。概要は以下のとおりです。

1 日時・会場

令和8年4月17日（金）エースパック未来中心2階セミナールーム3（倉吉市駄経寺町212-5）

2 参加者

200名

3 概要**（1）開会（議長あいさつ）**

- ・ 県議会としては、このたびの提言を結論とするのではなく、今後さらなる議論や政策提言へと展開させていく1つの起点となることを期待している。
- ・ 人口減少は、我が国全体の大きな課題だが、人口最少県である鳥取県だからこそ、新たな方向性を示すチャンスでもある。
- ・ 県民一人一人が地域の未来を展望し、夢や希望を語ることができる地域づくり、ふるさとに輝きを取り戻す第一歩をここからスタートさせる機会としたい。

（2）基調講演：（講師）一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏

- ・ 世界や地域社会は不安定化し、人口減少や地域の弱体化が進む中、将棋倒し的な崩壊を防ぐには「地域ごとの強靱性」を高めることが不可欠であり、地域から社会を再構築する発想が重要。
- ・ 地域経済は「穴のあいたバケツ」のように外部流出が大きいいため、域外流出の1%を取り戻し、地産地消やエネルギー・食料の地域内循環を高めることで住民の所得向上が可能になる。
- ・ 人口減少は人間関係や地域機能を急激に弱体化させるため、分野横断で人や資源を結びつける「小さな拠点」を整備し、交通・福祉・教育などを一体的に支える仕組みが必要。
- ・ 子ども食堂や複合施設、地域会社などの実践例に見られるように、短時間でも働ける人や地域参加といった小さな力を結集し、循環型社会と支え合いのネットワークを構築することで、人口減少下でも持続可能な地域づくりは可能。

（3）提言書の報告：（報告者）鳥取県議会人口減少社会問題調査特別委員会 委員長 川部 洋 氏

- ・ 提言書では、2050年に向けて、人口40万人という規模でも豊かに暮らせる鳥取県をつくるために強靱化と定常化に取り組み、若者と女性に選ばれる鳥取県になることを目指している。
- ・ 人口減少対策として我々がまずやるべきことは、人口が減少しても住み続けられる地域を作ること、つまり強靱化であり、それに最優先に取り組むべきという提言になっている。
- ・ 提言書で書いたことは結論ではなく、あくまで方向性を示したもの。この提言書がみんなと一緒に考えるきっかけになればいいと考えている。

（4）パネルディスカッション：（パネリスト）藤山 浩 氏、川部 洋 氏、中村 英明 氏（日南町長）、中野 麻衣 氏（令和7年度みんなで話彩や（はなさいや）チーム、助産師）

○基調講演・提言書報告を聞いた受け止め

(中村氏) 講演の中であった地域経済の話については、日南町も地域通貨を発行して好評を得たところ。バケツの穴を小さくする取組を今後も続けていきたい。

○選ばれる地域になるためには

(中野氏) 選ばれるという点では、財政的に潤っていてハード面が整備されていることが1つ要素になると思うが、行きたい・住みたいという点では子育てにおける安心の拠り所を探して、誰かを頼ったり、集落の雰囲気を入りこめたりするきっかけづくりが重要だと思う。

○今の中山間地域に対する印象

(川部氏) 以前集落を歩いて回って、最近また回り始めたが、空き家は増えていない印象。中山間地域は割と強靱であると感じているが、世代交代が止まっている。また、地方では人と人との関係性がとても大事であり、集落や校区といった様々な単位で繋がりについて考えていく必要がある。

○地域の自立を見据えた行政の関わり

(藤山氏) 県職員の方々に期待したいのは「縦割りではなく分野横断でチームを作ること」と「専門性を生かしてもっと地域に出て行くこと」の2つ。定年延長によって集落で活動する人の高齢化がさらに進んでしまったので、一緒に汗を流してチャレンジしていく人が増えてほしい。

(5) 参加者とパネリストの意見交換

○講演で地域交通の空き時間を活用したり、新聞や店舗商品をまとめて運送したりという提案があったが、集荷や配送の時間を考えると難しいのでは？

(藤山氏) 色んなものを1回集める小さな拠点があって、そこにいけば新聞や日用品や郵便も受け取れるような仕組みが必要になる。それには県民側も待ち時間を許容する一定の我慢をしないといけない。ただ、その待ち時間で拠点に色んな人が寄り集まって交流したり、軽作業したりできるとみんながハッピーになる。そういう発想の転換のもとで鳥取県もチャレンジしてほしい。

○県民人口を40万人にするという目標を設定した意味は？

(川部氏) いつまでにこの人口にということではなく、40万人くらいで安定化させることを目標にして、そのためにどういう取組が必要で、やってみてどうだったか検証して、やり方を柔軟に変えていく必要があるということ。

○地域が求めている若者・女性は子育て世代や子どもをもちたい若者ではないかと感じている。地域を盛り上げるにはあなたの力が必要ですよというメッセージが必要では？

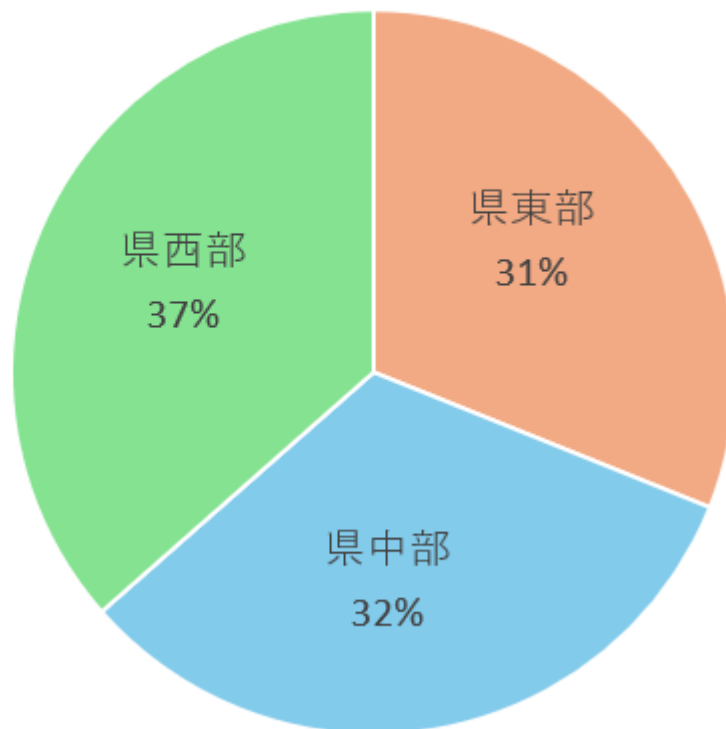
(中野氏) 多様化やジェンダーレスの時代なので、いろんな家族の形態がある。様々な倫理観や宗教観をすべてひっくるめて受け入れる姿勢が、後々自治会や地域の力になっていく。

(6) 閉会 (副議長あいさつ)

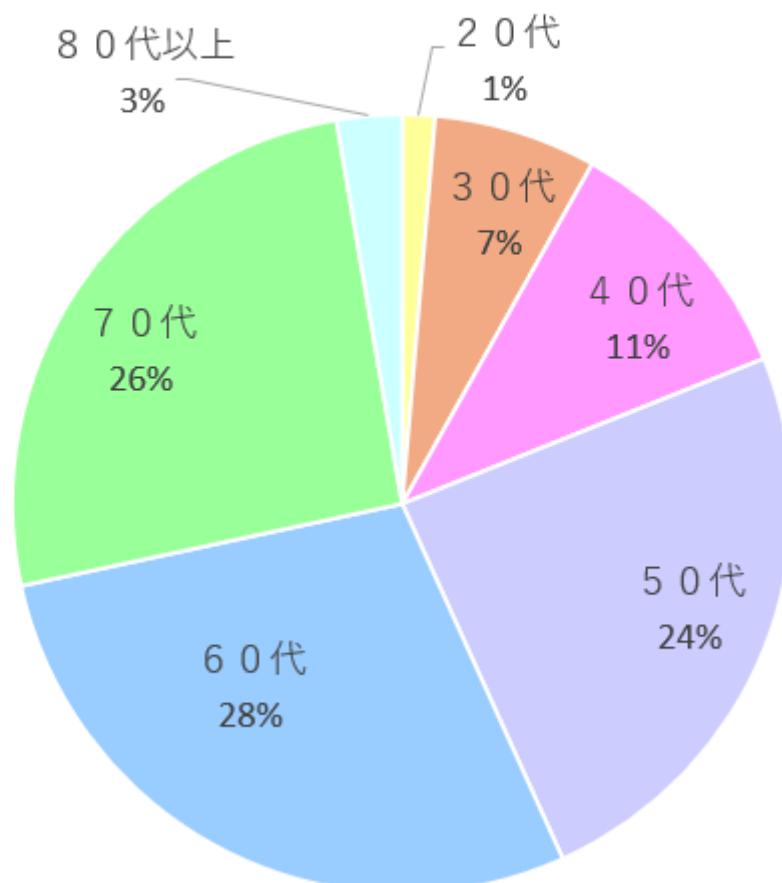
- ・本日の報告会では、人口減少という大きな課題について、ただ恐れるのではなく、減っていく現実を直視し、解決策を見いだすために一人ひとりの不断の努力が必要であることが共有できた。
- ・本日お示しした提言書は、行政や議会、経済界を初めとする関係者、さらには、県民の皆様がともに手を携えて、未来を展望し、歩みを進めていく第一歩となることを期待するもの。
- ・ご来場の皆様がそれぞれの立場で、本日の気づきを持ち帰り、まずは所属や家庭で話をしていただくことが、若者や女性にも選ばれる鳥取県の実現に繋がるものと確信している。

人口減少問題に関する提言書報告会参加者アンケート結果 《アンケート回答総数74名（全参加者200名）》

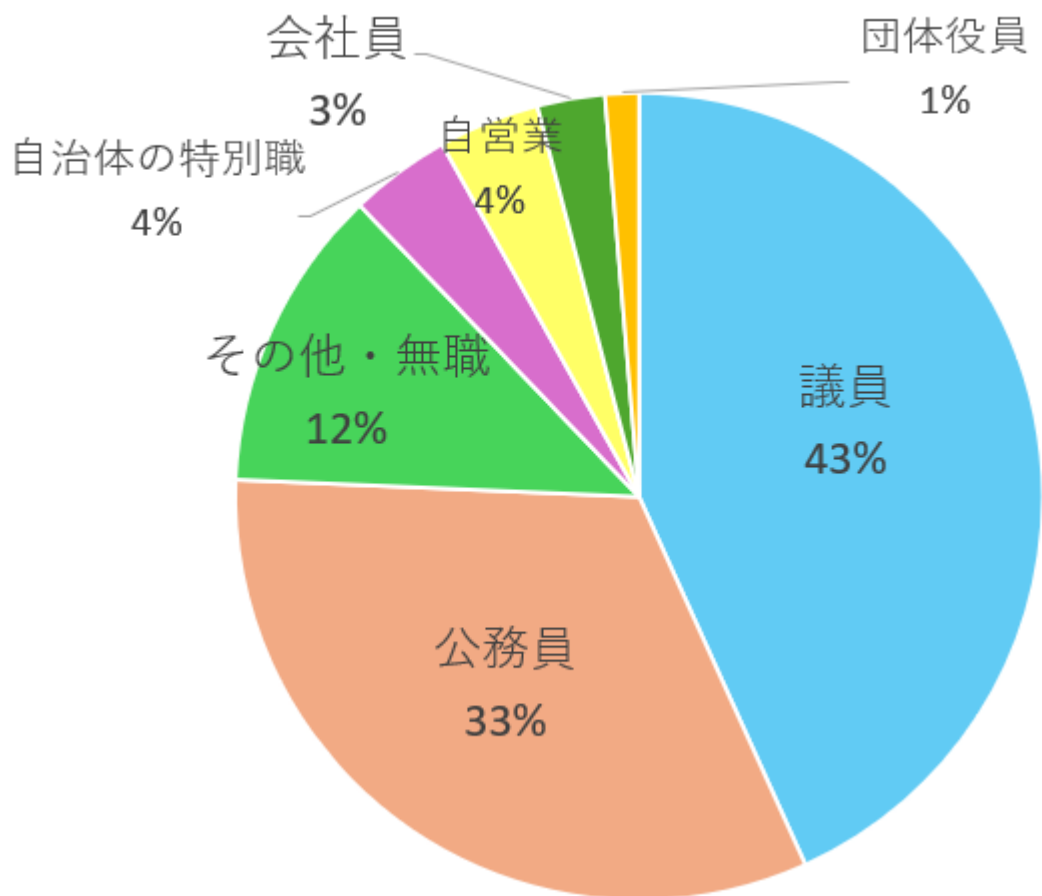
1. 参加者地区別（回答74人）



2. 参加者年齢別（回答74人）



3. 参加者職業別（回答74人）



4. 人口減少による影響は感じていますか。

項目	回答
影響を感じている	72
影響を感じていない	0
どちらともいえない	2
合計	74

5. 人口減少の影響を感じている理由・内容（抜粋）

○人口減少の影響を感じていると回答した方の理由・内容

- ・公共交通機関の便数減少。
- ・店が減っていく。子どもの同級生が少ない。チームスポーツが経験しにくい。役員をする人が限られる。空き家が増えた。地域コミュニティが希薄。
- ・地域経済が縮小している。地域を支える人が減り、ゆとりのない地域社会となってきた。
- ・様々な業界での人材不足、各地域での担い手不足になっている。
- ・コンビニ・スーパー・飲食店が撤退したまま復活しない。隣近所に空き家が増えた。
- ・公共交通機関（JR、バス）の利用者が少ない。地域、学校、公共施設など統合が続く。
- ・町、地域の活気低下、高齢者の生活の不便さなど、一昔前とは違ってきている。
- ・地域行事などの盛り上がりが悪い。こどもが少なく、さみしい感じがする。労働力が不足しがち。
- ・自治会などに出席すると、同じ顔ぶれかご高齢の方が多い。若者も子どもの姿も減っている。
- ・産業や地域の担い手不足、公共交通機関の先細り。
- ・「地区活動や町内活動の継続」を目指す上で対応できる人員の不足を感じる。「継続」ではなく、「活動は継続しつつ体制の見直し」が必要だが、お年寄りに理解されないので、現状維持となっている。
- ・町報を見ても死亡に比べて出生がかなり少ない現状。こどもの出生から子育ての施策、住みやすい地域づくりが重要。都市圏に出ていっても故郷に戻ってきたいと思えるような施策が必要であり、こどもの時からのふるさと教育や向かい入れる経済、地域の人づくりがポイントであると思う。
- ・徐々に県人口が減少し、かつては60万人県民と言っていたが長らく50万人。今後これさえも下回れば全産業が人手不足に陥る状況が想定される。色々対策を講じる事が急務と考える。
- ・各種団体の後継者が少ない。特に集落など。女性の活躍の場を増やさねば。
- ・地域をはじめとする担い手不足、コミュニティの維持困難、税収減による行政サービスの低下。
- ・地域内で子ども達の減少が目立ち、地域コミュニティでの活動が出来なくなってきた。又、男女の未婚者が目立つと同時に子どもがいない夫婦も増えている。
- ・行政の将来が心配。県内はもちろん、倉吉市についても人材育成、人間関係も大切であり、対策・計画・行動が重要。
- ・市内企業の雇用情勢、公共交通機関(特にタクシー)の運転手不足、外国人労働者の増加(市内、周辺在住者の労働従事者不足)
- ・農地を守れなくなってきた。第1次産業が崩壊すれば日本は崩壊する。大規模農家だけが農家ではない。小規模農家に対する政策が早急に必要である。

○どちらともいえないと回答した方の理由・内容

- ・子どもを取り巻く保護者、保育・教育現場も一生懸命取り組んでいる。教員・保育士不足も顕著だが、人口減少による影響が出ているというより、それぞれの環境に課題があると感じる。

6. 報告会への参加、又は提言書を踏まえたご意見・ご感想（抜粋）

- ・地域内での経済の循環を日頃から心がけたいと改めて感じた。また、今回の報告会にもっと若い世代が参加してほしいとも感じた。
- ・藤山所長のお話は、データや実験結果等に基づく具体的な内容で、非常に分かりやすく、腹に落ちた。また、県の取組が必ずしも十分であるとか、正解であるとは限らないので、県議会として知事に提言することは、非常に有意義と感じた。
- ・先ずはどれ位お金が県外に流出してるのか見える化したい
- ・非常に勉強になった。コンパクトシティ的な構想であり、人口減少対策の一案として考えることができると感じた。
- ・じっくりと時間をかけて議論したいと感じる内容だった。特に藤山さんの資料の詳細を知りたい。
- ・成果の出ない少子化対策、うまくいかない移住対策、一極集中は社会構造に問題があることに気づかされた。人口が減り続けると暮らしの基盤の喪失、地域コミュニティの衰退、行政サービスの低下につながっていく。私の地域においても、スーパーの撤退や医療機関の閉院。こうした地域力の低下が進展している。人口減少対策の戦略のひとつに「強靱化」に力を入れていく視点が参考になった。
- ・多くの職員や住民は漠然としか人口減少をイメージできていないと感じている。
- ・持続可能な社会づくりのために、限られた時間と資源の集中を図る必要があると考えます。
- ・行政と民間(特に自営業など)との結びつきがやすい。各種団体の補助金を合併時に切ったが、同時に行政と町民のつながりを失った。今後全県的に見直しを。
- ・減少した人口の中で効率的なコミュニティ作りだけでなく、その中にいる人々の関係性作りが大切だと感じた。
- ・「帰りたいと思える地域」は、「今いる人が住みやすい地域」と同じもの。今いる人が安心、満足できる地域は自然と選ばれ、帰ってくる場所になる。
- ・講演時に強靱化の方向を話されたが、現実では集団での生活は若者の個人的生活が多様化し、コミュニケーションが図りにくい。集落の活性化が強靱化となる。もう少し力を入れて活性化に向けたい。
- ・縦割ではダメだと感じた。横のつながりを活かしてコンパクトシティを目指したらと思いました。
- ・日南町の取組、良くやっておられます。他市町村も期待しています。
- ・問題意識はあるものの「ではどうすれば?」ともやもやしていました。どうしても「人口を増やさなければ」と思いこんでいたものが「推持していく」ことを目標にすればできることがあるのではと思うことができました。勉強になりました。
- ・市レベルでの人口定常化目標は自分事になりづらい。より小規模な分析が高い効果を発揮することがわかった。
- ・特に山間地にとって人口の急激な減少は死活問題です。うまく縮小できない部分、特にインフラの維持費について抜本的に解決する道筋をどう見い出すかが重要と感じました。
- ・日南町の20年、30年後のための人づくりに対しての考え方が良い。行きたくなる地域、戻りたくなる地域にするための対策を考えたい。

7. 人口減少問題に対する県又は県議会の取組についてのご意見・ご感想（抜粋）

- ・縦割り行政からの脱出で複合的という声もあったので、検証する機会があっても良いと思う。
- ・日本で一番人口の少ない県である我が県だからこそ、中山間地域における対策や踏みとどまれる対策に力を入れていただきたい。
- ・提言書に終わらず、結果を出していただきたいです
- ・少なくとも、毎年実行される事業に対する評価を毎年公開していただきたいです
- ・国や県のつきあいで、町村も連携しているが、そろそろ町村の財政も苦しくなってきた。次の合併の前にいかに拠点集中できるか…。近所付き合いの大事さも防災対策と合わせて、もっと進めたい。
- ・人口減少は「現状」なのか「課題」なのか。県全体として各自治体や各種団体等で考え方が異なるのではないかと。価値の相違や考え方の違いがあると政策展開につながらない。
- ・まずは何から手をつければいいのか、という指南表がほしいです。
- ・子どもを産む、育てる楽しさ、喜びを、幼少の頃から小・中・高までの若年世代にどう伝えていくか、周知するにはどのような効果的対策がとれるのか、全世代みんなで考えていくことが必要。
- ・今日の報告会の出席者が多く、それだけ人口減少に関心がある人が多いのだと思います。このような議論が不断に続いていくことで、人口定常化を創っていくのだと思います。
- ・人口が減少することはみなわかっている。減少するとどうなるかをわかりやすく県民に説明すること。一人一人ができることを提言すること。データと事実を伝えてほしい。
- ・県は広域的な調整、仕組みづくりをもっとやってはどうか。
- ・地域内に埋もれている人材が地域社会に参画できるよう、何かしらの壁を取り除くこと、寛容性をもつことなど古い考えを取り除いていくことが必要不可欠かと思う。
- ・議員にできることは少なく、実務者やリーダーになりうる人にこそ聞いていただきたい。
- ・特効薬はないので、地道に諸課題の対策をとってほしい。藤山先生の講演に比べ具体性に欠ける。
- ・地方だけの取組では限界があり、国としての支援、役割を果たすよう要望していただきたい。国策としてカバーする分野との役割分担を明確にしてほしい。新たな気づきの機会をいただきありがとうございました。
- ・若者が地域に入り込んで自由に活動できるような地域づくりができるような取組を進めてほしい。
- ・報告に具体が少なく県民がどの様に動き考えれば良いか、感じる人は多いと思います。
- ・移住競争は不毛。→本質的な対策が遅れる。→本質的な対策とは選ばれる地域となること→これは競争とはならないのか。
- ・良い報告会でした。これからも共に勉強する機会を作ってください。ありがとうございました。
- ・それぞれの町村独目での取組が難しいので方向性を示してもらえるとありがたい。
- ・既存の概念にとらわれることなく、持続可能な鳥取県となるよう新たなチャレンジに挑んでください。